

願いがかたう「ななとこ巡り」と艶やかで優雅なノダフジ鑑賞

大阪歴史案内人 沖本然生

野田城石碑(旧名 城ノ内)

この地域は平安時代以前には「難波八十島」と呼ばれる島々が点在していたが、淀川の堆積土砂によって段々と島が陸続きになり、平安時代より今日に至るまで大きく変化してきた。野田城も当時は島のような場所に築城されていたと考えられる。

極楽寺 大阪市福島区玉川 4-3-7

浄土真宗 東本願寺 大谷派 野田御坊極楽寺 門徒衆の二十一人討死した墓所に建てられたのが極楽寺である。

親鸞(しんらん)

(1173年 - 1262年)は、鎌倉時代前半から中期にかけての日本の僧。浄土真宗の宗祖とされる

蓮如(れんにょ)8世

室町時代の浄土真宗の僧。本願寺第8世。本願寺中興の祖。

親鸞の直系とはいえ蓮如が生まれた時の本願寺は、青蓮院の末寺に過ぎなかった。他宗や浄土真宗他派、により衰退の極みにあった。その本願寺を再興し、現在の本願寺教団(本願寺派・大谷派)の礎を築いた。

証如(しょうにょ)10世

10歳で継承し、本願寺第10世宗主。管領細川晴元らは京都の日蓮宗教団や六角定頼と手を結んで、当時の本願寺の本拠地であった山科本願寺を攻撃し、これを焼き討ちにした(天文法華の乱)。山科本願寺を追われた証如は、居所を大坂の石山御坊に移し、石山本願寺を新たな教団の本拠地とした。

証如-顕如(けんにょ)-教如 徳川 東本願寺
准如(じゅんにょ) 西本願寺

顕如(けんにょ)11世

顕如は信長に此の地を譲ってくれと言われ、キツパリと断る。そのため元亀元年(1570年)に本願寺と織田氏は交戦状態に入った(野田城・福島城の戦い)。一連の抗争は石山合戦と呼ばれる。石山本願寺は反信長の総本山のような存在となり、諸国から一目おかれる存在となっていき、その後11年間にわたり石山合戦という長い戦いが開始されるきっかけとなる。この時期に殺された一向宗門徒は十万人を超えと言われており、日本史上における最大規模の虐殺であった事は間違いない。

織田家に降伏して石山本願寺城から退去。石山本願寺を退出、紀州(和歌山県)鷺森(さぎのもり)に移る。

ただ、信長に降伏する際、法主「本願寺顕如(けんにょ)の子「本願寺教如」はそれに反対、石山本願寺城から退去しようとしなかったため、勘当されることとなります。

しかし徹底抗戦を訴える教如は一部の熱狂的な門徒に支持され、これが結果的に本願寺家の分裂を生み、「西本願寺(顕如派)」と「東本願寺(教如派)」に分かれる事となります。

豊臣(とよとみ)秀吉から大坂天満(てんま)の地を与えられて同年8月に寺基を同地に移す。さらに秀吉から京都西六条の地を寄進され、同年8月顕如・教如父子はこれに移る。現在の西本願寺。

徳川家は教如を支援して勢力を二分した方がよいのではとの提案を採用し、本願寺の分立を企図する。教如に七条烏丸に四町四方の寺地を寄進され、東本願寺が分立する。このため弟の准如が継承した七条堀川の本願寺は、西本願寺と呼ばれるようになる。本願寺の分立にともない、本願寺教団は東西に分裂する。

恵美須神社(えびすじんじゃ)

戎(今宮)、恵比寿神社ではない。創建900年。昭和初期、当神社の敷地面積は約六百坪でした。皇紀二千六百年(昭和十五年)を記念しての神域拡張が計画されました。裏側は大阪市の小公園でしたので、これを買収するべく市に交渉、幸いにも大阪

市の承諾を得ることができました。氏子有志による神域拡張奉賛会が組織されその熱意と努力により必要な資金が調達され、昭和十七年多年の宿願が成就、現在のような約千坪の敷地面積が拡張された。

円満寺(えんまんじ) 浄土真宗本願寺派 居原山

天文3年(1534)12月、討死した21人の菩提を弔うため野田村惣道場として創建。毎年5月8日には、野田御書(野田村二十一人討死御消息)披露法要を開催し往時を偲び討死した二十一人門徒の功績を顕彰している。

證如上人より阿弥陀仏画像を拝受し御本尊として安置し、現在まで『野田御書』とともに寺宝として大切に保存している。今でも恩義に報いるため集まりの際は一番前に座る。

「筋堀(すじべい)」

とは、に白色の横筋を刻んだ築地堀のことです。この白色の横筋を定規筋という。

五本の筋が最高格式を表し、現在は最高の五本筋は滅多にお目にはかかれませんが、「筋堀」が主に寺院の堀として用いられている。

野田春日神社

元は藤家個人宅にあった神社。本人自体はマンション住宅に引っ越した。藤庭は市に寄付、下福島公園内。

フジはマメ科。奇数羽状複葉。13枚がヤマフジ、それ以上がノダフジ(フジ)花色が薄い紫色山藤は濃く花が大きく短かい。

世界のノダフジの発祥地が大阪の野田に

大阪市福島区野田および玉川辺りはその昔は「吉野の桜、野田の藤、高雄の紅葉」と並び称された藤の名所だったといわれている。大坂の名所を紹介する『摂津名所図会』や『浪華の賑ひ』など名所図会の類には多く登場する。800年前の原木は戦災とその後のジェーン台風により枯れたが、江戸時代初め参勤交代のおり大坂に立ち寄った宇和島藩の伊達氏がこの原木より株分けし持ち帰ったのが、現在は一部の熱心なノダフジに賭けた人たちにより、次第に往時の華やかさを取り戻しつつある。

貞治三年(1364)4月、足利尊氏の子・室町幕府二代将軍義詮も住吉大社に参詣に行く途中、三津の浦から船に乗り田籠島に上陸しそこから南にある「野田の玉川」に立ち寄った。その川のほとりに藤の花が咲き乱れていたため、次の和歌を詠んだ。

「むらさきの雲とやいはむ藤の花 野にも山にもはひぞかかるる」

明治以降も牧野富太郎が藤家の周辺のフジを調べ、ヤマフジと別種のノダフジと命名する。

福島天満宮

全国八万社のうち、天満宮の数は一万二千社を超えるといわれている。

下の天神 中の天神は戦災で焼失し、復興の嘆願もかなわず、上の天神(福島天満宮)に合祀されました。

下福島公園

大正10年の地図を見ると、1894年(明治27年)にできた大日本紡績福島工場(のち合併でユニチカ)と大福紡績会社(大阪福島紡績?)が並び立っています。また東側には福島三天神のひとつ、中の天神がありました

此花区は1925年(大正14年)に誕生、1943年(昭和18年)に福島区を分離しました。戦時中でもあり、下福島公園の整備に、当時の町会が勤労奉仕したということ。

事実、明治42年の北の大火で天満から福島まで燃えた際、第二次世界大戦の空襲の2回の火事の延焼を防いだ大福紡績工場の堀。

田辺写真館

蔵の東の、あみだ池筋に面した駐車場が田辺写真館。作家田辺聖子さんの生家だ。28(昭和3)年生まれの田辺さんはここで生まれ、空襲で焼け出されるまで住んでいた。

ななとこまいり

大阪歴史案内人 沖本然生

戦時の空襲を免れたので、都心近接にも関わらず、昔ながらの長屋や路地、お地蔵さんなどが今に残る下町風情漂うまちです。

昔の野田村地域には「おじぞうさんを七つお参りすると願い事が叶う」という「ななとこまいり」と呼ばれる古くからの言い伝えがあります。この「ななとこまいり」にあやかってお地蔵さん巡りをしながら、この時期ならではの「のだふじ巡り」を楽しみましょう。

おじぞうさん

仏様の一人平安時代にインドから大陸を伝わって日本に来た。仏の中で唯一、自ら地獄まで出向き苦しみ人々を救ってくれる。そのため、足にわらじを履いている。その後、他の民間信仰の神様と合体を繰り返す。今では子供の神様として定着している。

①源吉大明神

戦火から町を守った、火除けのためきさん。

②子安じぞう

子供をだっこ、願掛けしてさすって。

③出世じぞう

二代目のおじぞうさん。地蔵型の椅子もあるよ。

④源正じぞう

ガレージ奥に住む天王寺出身の四人兄弟

⑤宝稲荷大明神

伏見稲荷から正一位をいただいた由緒ある稲荷

⑥同慶じぞう

同慶町の職人を見守ってきたおじぞうさん。

⑦北向火除じぞう

古い町なみの蔵の一角に建つ風情豊かなお堂に

のだ周辺図現在



中福な福梅庄西大大
金剛会学

上福
福
玉川
野

野田周辺図 明治42年

